

政策評価書（要旨） （事前の事業評価）

事業名	FCS-3の性能向上の研究	担当部局	経理装備局技術計画官
政策体系	I-4-(2)-① 研究	実施時期	平成19年6月～8月

<b>事業の内容</b> 護衛艦に搭載される対空射撃システムであるFCS-3の捜索、探知及び追尾能力並びにECCM能力の向上を図り、小型・軽量化及び整備性の向上を追求しつつ、遠距離から近距離、高々度から超低高度までのエリアをカバーできるFCS-3の性能向上に関する研究を行う。	<table border="1"> <tr> <td>20</td> <td>21</td> <td>22</td> <td>23</td> <td>24</td> <td>25</td> <td>完了年度</td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="3">研究試作</td> <td></td> <td></td> <td>25年度</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>試験</td> <td></td> <td></td> <td>試験</td> <td>経費総額</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>←---</td> <td></td> <td></td> <td>←-----→</td> <td>約5.5億円</td> </tr> </table>						20	21	22	23	24	25	完了年度		研究試作					25年度			試験			試験	経費総額			←---			←-----→	約5.5億円
	20	21	22	23	24	25	完了年度																											
	研究試作					25年度																												
		試験			試験	経費総額																												
		←---			←-----→	約5.5億円																												
<b>所要経費</b> 約2.4億円（平成20年度概算要求額。後年度負担額を含む。）																																		

評価の内容

<b>事業の目的</b> 護衛艦に搭載される対空射撃システムであるFCS-3の捜索、探知及び追尾能力並びにECCM能力の向上を図り、小型・軽量化及び整備性の向上を追求しつつ、遠距離から近距離、高々度から超低高度までのエリアをカバーできる将来の対空射撃システムに関する技術資料を得る。	<b>事業実施の効果・時期</b> 1 事業実施の効果 現在のFCS-3に比べ、以下の能力を向上させることができる。 ア 捜索、探知及び追尾可能な範囲が拡大する。 イ 被探知性が低下するシースキミングミサイルなどの超低高度目標に対する探知能力が向上する。 ウ 複数の妨害波に対処可能となり、ECCM能力が向上する。 その他、器材の小型軽量化、消費電力の低減、コスト低減及び整備性の向上が図られ、搭載護衛艦の設計の自由度の向上及びぎ装条件の緩和が図られる。 2 事業実施時期 平成20年度より24年度まで研究試作を実施し、試験を平成22年度及び24年度より25年度まで実施する予定である。
--	---

事業の必要性・適正性

ミサイル関連技術の進歩に伴い、超低高度シースキミングミサイル、中、高高度ミサイル等が高度化しており、これらのミサイルに対処可能な護衛艦搭載用の対空射撃システムを構築する必要がある。

このため、対空射撃システムには、レーダーの広帯域・高出力送受信技術、アンテナにおける多素子一体化及び構成機構の簡素化技術及びデジタル化したアダプティブ・ビーム・フォーミング技術の確立が求められているところ、これら技術は国内の既存の艦載用レーダーには適用されていないことから、新たな研究として本事業を実施する技術を確立させる必要がある。

今後の対応

本事業は、FCS-3の捜索・追尾能力及びECCM能力等の性能向上について研究するものであり、将来の護衛艦の能力向上に寄与するものと評価できるため、平成20年度概算要求を行う。

その他の参考情報

--

